

生物多様性地域戦略策定事例分析

(平成23年3月現在)

	北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市			
【生物多様性地域戦略の構成等】															
名称	北海道生物多様性保全計画	生物多様性とちぎ戦略	生物多様性ちぎ県戦略	生物多様性保全県戦略	あいち自然環境保全戦略	ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する基本計画	滋賀県バイオネットワーク長期構想	生物多様性ひょうご戦略	長崎県生物多様性保全戦略	生物多様性がれやま戦略	生物多様性2050なごや戦略	生物多様性ひだたかやま戦略(基本構想編)	北九州市自然環境保全基本計画	北九州市生物多様性戦略(北九州市自然環境保全基本計画改訂版)	
副題		つなごういのちの共生をいま「とちぎ」から	生命(いのち)のにぎわいとつながりを子どもたちへの未来へ		生物多様性の保全と持続可能な利用を目指して		野生動植物の生息・生育環境の保全・再生・ネットワーク化に関する長期構想		いきものと人々が賑わう「ながさきの未来環境」を目指して	オオタカがすむ森のまちを子どもたちの未来へ			「都市のなかの自然、自然のなかの都市」の実現を目指して		
発行年月	平成22年7月	平成22年9月	平成20年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成19年3月	平成21年2月	平成21年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成22年3月	平成22年3月	平成17年9月	平成22年11月	
ページ数	本編	56	62	127	88	118	38	65	115	80	37	104	33	163	174
	資料編 参考資料	10	35	46	0	16	6	0	42	12	35	15	7	0	0
URL	<a href="http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/hokkaidotavousei.htm">http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/hokkaidotavousei.htm</a>	<a href="http://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/eco/shizenkan/kyou/shizen/1284000180082.html">http://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/eco/shizenkan/kyou/shizen/1284000180082.html</a>	<a href="http://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/keikaku/kanvouseikatsu/tavousei.html">http://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/keikaku/kanvouseikatsu/tavousei.html</a>	<a href="http://www.pref.saitama.lg.jp/site/ikimonoroiro/tavouseihozen.html#lnk3">http://www.pref.saitama.lg.jp/site/ikimonoroiro/tavouseihozen.html#lnk3</a>	<a href="http://www.pref.aichi.jp/0000028443.html">http://www.pref.aichi.jp/0000028443.html</a>	<a href="http://www.pref.shiga.jp/d/shizenkan/kyosei/ikimonoroiro/sei/kihonkeikaku.html">http://www.pref.shiga.jp/d/shizenkan/kyosei/ikimonoroiro/sei/kihonkeikaku.html</a>	<a href="http://www.pref.shiga.jp/hodo/e-shinbun/dg00/20090226.html">http://www.pref.shiga.jp/hodo/e-shinbun/dg00/20090226.html</a>	<a href="http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html">http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html</a>	<a href="http://www.pref.nagasaki.jp/size/n/20tavou/index.html">http://www.pref.nagasaki.jp/size/n/20tavou/index.html</a>	<a href="http://www.city.nagarevama.chiba.jp/section/kanvouhozen/seibutsu-senryaku.htm">http://www.city.nagarevama.chiba.jp/section/kanvouhozen/seibutsu-senryaku.htm</a>	<a href="http://www.kanagawa-net.city.nagoya.jp/biodiversity/strategy/index.html">http://www.kanagawa-net.city.nagoya.jp/biodiversity/strategy/index.html</a>	<a href="http://www.city.takavama.lg.jp/c/hiikiseisaku/tavousei.html">http://www.city.takavama.lg.jp/c/hiikiseisaku/tavousei.html</a>	<a href="http://www.city.kitakyushu.jp/cpportal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&amp;NEXT_DISPLAY_ID=U000004&amp;CONTENTS_ID=2">http://www.city.kitakyushu.jp/cpportal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&amp;NEXT_DISPLAY_ID=U000004&amp;CONTENTS_ID=2</a>	<a href="http://www.city.kitakyushu.jp/cpportal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&amp;NEXT_DISPLAY_ID=U000004&amp;CONTENTS_ID=3">http://www.city.kitakyushu.jp/cpportal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&amp;NEXT_DISPLAY_ID=U000004&amp;CONTENTS_ID=3</a>	
目次構成	I 生物多様性とは	第1章 策定に当たって★	第1章 戦略策定に当たって★	I はじめに	第1章 戦略策定に当たって★	序章 はじめに★	序章 はじめに★	第1章 戦略策定に当たって★	第1部 基本計画 第1章 生物多様性の保全が必要な理由★	第1章 今なぜ、'ながれやま戦略'なのか	第1章 生物多様性2050なごや戦略とは[総論編]★	I 生物多様性と地域戦略の意義★	第1部 計画策定の背景及び趣旨★	第1部 戦略策定の背景及び趣旨★	
	II 計画策定に当たって★	第2章 生物多様性を取り巻く情勢	第2章 戦略策定の視点と手法	II 埼玉県の自然環境	第2章 生物多様性の現況と課題	第1章 滋賀県の野生動植物の現況と課題	第1章 野生動植物の生息・生育環境の保全・再生・ネットワーク化に関する方針★★	第2章 生物多様性を取りまく情勢	第2章 長崎県の生物多様性の現状	第2章 戦略の基本的事項★	第2章 自然が創り、人が造ったなごや[歴史編]	II 高山市の生物多様性	第2部 自然環境の現状と課題	第2部 自然環境の現状と課題	
	III 生物多様性をめぐる情報情勢	第3章 基本理念と目標★★	第3章 生物多様性の現状と課題	III 絶滅に瀕している野生生物と埼玉県の取組	第3章 目標★★	第2章 野生動植物との共生に関する基本方針および長期的な目標★★	第2章 野生動植物の生息・生育環境の保全・再生・ネットワーク化を重点的に推進すべき区域	第3章 ひょうごの生物多様性	第3章 県戦略の目標と基本方針★★	第3章 戦略の理念と目標★★	第3章 現在のなごやの姿[現状編]	III 戦略の理念	第3部 自然環境保全の基本理念と基本目標★★	第3部 自然環境保全の基本理念と基本目標★★	
	★ :対象とする区域 (法第13条第2項第1号)														
	★★ :目標 (法第13条第2項第2号)														
	★★★:総合的かつ計画的に講ずべき施策 (法第13条第2項第3号)														

生物多様性地域戦略策定事例分析

	北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市		
	IV 計画の基本方針 ★★	第4章 行動計画 ★★★	第4章 戦略の理念と 目標 ★★	IV 生物多様性の 保全に向けて の基本的な考 え方 ★★ ★★★	第4章 行動計画 ★★★	第3章 野生動植物と の共生に関し 講ずべき施策 ★★★	第3章 野生動植物の 生息・生育環 境の保全・再 生・ネットワ ーク化を図るた めの方策 ★★★	第4章 生物多様性の 取組と課題	第2部 行動 計画 第1章 行動計画の趣 旨と期間	第4章 基本方針	第4章 望ましいなご やの姿[展望 編] ★★ ★★★	IV 戦略の目標 ★★	第4部 施策の方針・ 展開 ★★★	第4部 施策の方針・ 展開 ★★★
	V 施策別実施方 針 ★★★	第5章 重点プロジェ クト ★★★	第5章 生物多様性の 保全及び持続 可能な利用の ための取組 ★★★	V 生物多様 性の保全に向 けて	第5章 推進体制	第4章 野生動植物と の共生に関す る推進体制		第5章 戦略の理念と 目標 ★★	第2章 生物多様性保 全のための今 後の取組	第5章 取組の基本的 な方向性 ★★★	第5章 もう、始まっ ています[実践 編]	V 指針の設定	第5部 計画の推進の ために	第5部 戦略の推進の ために
		第6章 戦略の效果的 な推進	第6章 戦略の推進	VI 生物多様性の 保全に向けた 県の主な取組				第6章 行動計画 ★★★	第3章 県戦略の推進 ★★★	第6章 重点プロジェ クト		VI 生物多様 性に関する基 本方針 ★★★		
				VII おわりに ★				第7章 戦略の效果的 推進		第7章 推進体制・進 行管理		VII 戦略の推 進に向けて		
関連用語解説	資料編 生物多様性と ちぎ戦略の概 要 概要版	資料編	資料編		資料編	参考資料		資料編 参考資料	資料編	資料編	資料編	資料		

生物多様性地域戦略策定事例分析

		北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市	
<b>【生物多様性の状況についての記述内容】</b>														
生物多様性に関する基本的事項(生物多様性の定義、国内外の現状と課題等)の記述		<p2,7> ・生物多様性とは(3つのレベル)、生物多様性をめぐる情勢	<p4,5> ・生物多様性とは(3つのレベル)、生物多様性からの恵み	<p4~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・生物多様性の価値・利用と危機	<p2~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・世界・日本における生物多様性保全への取組	<p9~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・生物多様性の重要性 ・生物多様性の危機		<p12~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・生物多様性をもたらす恵み ・生物多様性の危機	<p1-1~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・生物多様性保全の大切さ	<p38~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・生物多様性の危機 ・生物多様性に関する動向	<p8~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・生物多様性の恵み(生態系サービス)	<p1~> ・生物多様性とは(3つのレベル) ・生物多様性の重要性 ・生物多様性の危機		
生物の生息状況データの有無	生物種	<p17> 特に保護すべき高山植物生育地域  <p32> アライグマ分布、セイヨウオオマルハナバチ分布	・希少種データ ・外来種データ(資料集)	<p31> 落葉樹林の常緑樹林化  <p72> 植生及び土地利用の変化  <p92> ニホンジカ・ニホンザルの生息数の推移	・レッドデータブック動物編(2008年)、植物編(2005年)(図無し)	<p19> レッドデータブックあいち2009(動物編)掲載種数(図無し)  <p20> レッドデータブックあいち2009(動物編)掲載種数(図無し)	・ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマの県内生息数(図無し)  ・カワウの竹生島、伊崎半島の生息数(図無し)	<p33~p61> 分類別に、生物種の生息・生育状況等を記述	<II-24,25,27> イノシシ、シカの分布の変化、アライグマの分布拡大状況の推移  <II-2> 植生自然度の構成比及びその推移  <II-6> 県レッドデータブック掲載種数一覧(図無し)	<p48> 現存植生図  <p50> 既存の動植物調査結果	<p47> 希少種データ  <p50> マメナシ、ヒメタイコウチ、ナゴヤダルマガエルの分布  <p58,59> 外来種データ  <p114,115> 緑被地分布図、緑被率の推移	<p12> 高山市内の保存林及び保護地区	・カワセミ分布 ・確認された生物種 ・確認された福岡県レッドデータブック記載種 ・植物・鳥類・魚類・昆虫類重要種の分布情報 ・移入種の生育情報 ・ブルーギルの生息情報 ・北九州市の植生	・カワセミ分布 ・確認された生物種 ・確認された福岡県レッドデータブック記載種 ・植物・鳥類・魚類・昆虫類重要種の分布情報 ・移入種の生育情報 ・ブルーギルの生息情報
	定量的データの有無	p32	資料集	p92,93	p17~18		p8~10		p40,41,42,43,46,48,51	II-24,25,27	p48,50	p47,P115		
県レッドデータブックからの引用		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シンボリックな生物種の記述	生物種		オオタカ・ミヤコタナゴ・シルビアシジミ・シモツケコウホネ			アカウミガメ		コウノトリ(P10)		オオタカ				
	選定理由		栃木県の象徴する動植物として表紙に掲載			表浜がアカウミガメの産卵地		コウノトリの野性復帰は兵庫県の先導的な取組		貴重な鳥類				

生物多様性地域戦略策定事例分析

		北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市	
シンボリックな場所の記述	場所		里地里山河川・湿地			藤前干潟				市野谷の森			千仏鍾乳洞、平尾台、梅花石岩層	千仏鍾乳洞、平尾台、梅花石岩層
	選定理由		里地里山・オオタカ、サンバが高密度で生息する良好な生態系とその面的な広がり 河川・湿地・奥日光、鬼怒川礫河原、渡良瀬遊水地等の特徴的な生態系			ラムサール条約登録湿地				オオタカが生息			天然記念物	天然記念物
生物関係情報以外の地域の状況評価に関する記述の種類		地史・地質・地形・気候	地質、地形、気候、気温、耕作放棄地面積、自然公園及び自然・緑地環境保全地域	地形・地質・気候・歴史・文化・景観	地形、気候、地帯区分	地形・地質		気候・地形・風景・景観・特産物・伝統工芸・伝統文化	面積(陸域、海域)、地形、地質	位置、地勢、水系、気象、公園・緑地、社会・歴史	地形、気候、歴史	地理等概況、自然公園、自然環境保全地域	位置、地勢、気象、人口、産業、土地利用、水利用、エネルギー消費、歴史・文化、地形、地質、水環境	位置、地勢、気象、人口、産業、土地利用、水利用、エネルギー消費、歴史・文化、地形、地質、水環境

生物多様性地域戦略策定事例分析

	北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市		
<b>【目標設定と対策立案】</b>														
全世界または全国的に共通する状況把握からの目標や対策の設定	目標や対策の内容													
	目標・対策の出典													
地域毎の具体的な対策の記載	具体的な地域の分け方								ビオトープタイプ		重点地区・拠点			
	具体的な対策の内容								<p59~> 6つのビオトープタイプ毎の再生施策及び生態系回廊の再生・創出施策の記述		<p16~> 保全・回復と利用の方向性、取組概要、取組スケジュール			
	対策の定量的な記載の有無													
関係主体ごとの対策の記載	関係主体名		<p60~61> 戦略の効果的な推進各主体に期待する役割 県民・保全活動団体・事業者・市町		県民、家庭、学校、工場・事業所	県民、事業者、民間団体、専門家、県、市町村		(県からの働きかけ) 県民・NPO、企業活動、国、市町村、近隣府県	行政、NPO等、企業、農林水産業者、県民	<IV-22別表>		<p84~91> 行政、事業者、市民、学校  <p97~101> 各主体による実施状況を記載。名古屋ため池生物多様性保全協議会、市内中小企業、名古屋市教育委員会、なごや環境大学実行委員会、市民団体、名古屋市立大学		
	対策の定量的な記載の有無													

生物多様性地域戦略策定事例分析

	北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市	
投入努力目標(アウトプットの目標)		<p52~> (例) ・とちぎ里山林モデル地区 数 0箇所 (H21)→5箇所 (H27) ・生物多様性アドバイザー(仮称)認定者数 0人(H21)→250人(H27)			<p119、120> (例) ・指定希少野生動物種の指定 15種(新規) ・GAP(適正農業規範)手法の導入 14産地→100産地(H23) ・「生物多様性」の認識状況 12.4%→50%以上		<p111、112> (例) ・シンボルプロジェクト数 50箇所(H25) ・生物多様性支援拠点によるコーディネート件数 50件(H25) ・県内藻場面積 2,050ha(H27)			<p84> ・緑被率(25→40%)		<p4-13> 保有林指定面積  <p4-19> 自然環境サポーター育成  <p4-34> 都市緑化における計画目標	<p4-29> 100万本植樹プロジェクト  <p4-38> 都市緑化における計画目標
数値的目標					<p119、120> (例) ・油ヶ淵のCOD(H22)		<p111、112> (例) ・里山林の再生 16,000ha(H27) ・県内藻場面積						
予算措置についての明示												<p5-5> 本計画の推進のために、個別の事業ごとに必要な予算の確保に努めます。	<p5-7> 本戦略推進のため、個別事業ごとに必要な予算の確保に努めます。
環境部局以外の部局の役割の明示		<p147~> (例) ・農林水産部農村整備課→希少保全のためのハード整備、メダカに配慮した水路整備、ビオトープの創出						<IV-22別表> (例) ・水産基盤計画課→新生海の森づくり推進対策事業 ・農業経営課、振興局、農改→耕作放棄地解消5カ年計画実践事業		<p94~97(実施状況)> (例) ・緑政土木局、住宅都市局→緑化地域制度による緑の創出 ・上下水道局→水源地位保全、流域の水環境保全を目的とした上下流交流モデル事業		<p4-15> (例) ・経済文化局農林課→農地の保全 ・建設局下水道河川計画課→河川環境の保全 ・教育委員会指導第一課→学校教育における自然環境に視点を当てた教育の推進	<p4-2> (例) ・産業経済局農林課、建設局緑政課→森林の保全 ・産業経済局水産課→水産環境の保全 ・建設局水環境課→ほたるのふるさとづくり ・子ども家庭局青少年課→少年自然の家等における野外教育の推進

生物多様性地域戦略策定事例分析

	北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市			
【計画期間、見直し、モニタリング】															
計画期間	計画期間	おおむね10年	概ね10年間	50年		2025年	おおむね50年後を視野に入れつつ、5年間の施策の方向性	おおむね50年	H42年(2030年)頃を展望しつつ概ね10年間(H29年度まで)	100年をかけて自然の質の向上を目指す。10年先を見通して、今後5年間の取組を行動計画とする。	50年	40年	100年	平成17年度から同26年度の10年間	平成22年度から同26年度の5年間
	設定理由	長期的な視点に立って取り組むことが重要なことから。					第3次愛知県環境基本計画の施策と統合的に進めるため。	マザーレイク21計画の計画期間との整合性を図っている。	マザーレイク21計画の計画期間との整合性を図っている。	生物多様性の動向を勘案しつつ取組を進める必要があるから			100年余り前の風土記(斐太後風土記)に記述されたような豊かな生物多様性と人のつながりを、今後100年かけて取り戻す意味も含んでいる。		
計画の見直しについて の記載	手法					あいち自然環境保全戦略推進委員会の設置								市民・NPO、事業者、学識経験者、市は、毎年どのような取組が行われ、どのような成果があったなどを把握し、本計画の基本目標の達成状況、施策、取組方法などについて、毎月意見交換会する。	市民・NPO、事業者、学識経験者、市は、毎年どのような取組が行われ、どのような成果があったなどを把握し、本戦略の基本目標の達成状況、施策、取組方法などについて、毎月意見交換会する。
	実施主体及び実施方法					あいち自然環境保全戦略推進委員会	滋賀県野生動物との共生に関する推進会議、環境審議会	短期的な点検・見直しでは、野生動物共生基本計画の点検・見直しの中で実施							
	間隔	点検・評価し、必要に応じ、定期的に見直し(P37)	5年を目途に見直し	5年を目途に戦略を見直し		5年ごと	5年ごとに点検、必要に応じて見直し	短期的な施策の実施状況の点検・見直しについては、おおむね5年おき	原則5年ごと	5年		当初は5年後、その後は概ね10年ごと		自然環境や社会情勢の変化に対応するとともに、生物多様性国家戦略や岐阜県及び周辺市町村の地域戦略の策定・見直し状況を確認しながら、10年を目処に見直し	計画の計画期間は、平成17年度から同26年度までの10年間であるが、意見交換の結果等を踏まえて、必要に応じて中間段階で施策の見直しなどを行う。

生物多様性地域戦略策定事例分析

		北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県	兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市	
モニタリング についての 記載	手法	・実施してきたモニタリングを継続し、未調査の生物種、生態系などについてはモニタリング実施体制の確立を図る。 ・個体レベルあるいは生態系レベルの健全性の評価手法の確立に努める。	動植物の生息・生育状況などの調査（絶滅のおそれのある種の調査、自然環境情報の管理）	生物多様性に関するGISやモニタリングシステムの整備	・指標生物の確認	・県民やNPOなどの多様な主体から出来る限り多くの参加を得て主要な地域における継続的モニタリング ・県全域のポテンシャルマップを作成し、生態系ネットワーク形成のグランドデザインを提示	・野生動植物の生息・生育状況、生育地などの総合調査 ・野生鳥獣種に関する生息状況調査。 ・県の試験研究機関による調査。	・生きもの総合調査 他		・国等との共同調査（特に希少な野生動植物の現況把握のための調査） ・モニタリングサイト1000と連携した体制構築 等	・多様な主体による自然環境調査 ・環境指標種等の設定	・特徴的な自然環境や生物種を対象としたモニタリング調査 ・評価指標の検討と評価	<p4-17> ・国が行うモニタリング調査に積極的に協力するとともに、選定地域の保全を進める。	<p4-15> ・国が行うモニタリング調査に積極的に協力するとともに、選定地域の保全を進める。
	実施主体			流域区分・生態系区分等を踏まえて、県民、NPO、大学等の研究機関、市町村等多様な主体と連携して実施。	県とNPO・県民協働による調査を実施		専門家からなる「生きもの総合調査委員会」、県の試験研究機関、国等の試験研究機関、一般県民の協力他	専門家からなる「生きもの総合調査委員会」、県の試験研究機関、国等の試験研究機関、一般県民の協力他		国、県 他	<p9> 市民活動団体等と協働で実施	市民、行政、事業者、専門機関		
	間隔													

生物多様性地域戦略策定事例分析

		北海道	栃木県	千葉県	埼玉県	愛知県	滋賀県		兵庫県	長崎県	流山市	名古屋市	高山市	北九州市	
<b>【策定手続き】</b>															
策定期間		H19.8～H22.7	H21.4～H22.9	H18.9～H20.3	H13.8～H20.3	H18.2～H21.3	H18.6～H19.3	H18.6～H21.2	H20.5～H21.3	H19.5～H21.3	H21.3～H22.3	H20.4～H22.3		H15.4～H17.9	
策定経過掲載ページ			P90	p164～167、p171～173	p88	p122	参考資料P.4	p71	p156	資-11	p51	p5	資料 6/7	はじめに	はじめに
外部委員による委員会等の設置	名称	北海道環境審議会 生物多様性保全部会	生物多様性とちぎ戦略検討委員会	「(仮称)生物多様性ちば県戦略」専門委員会	生物多様性保全県戦略検討委員会	あいち自然環境保全戦略検討会	自然環境部会「野生動植物との共生に関する企画小委員会」	自然環境部会「野生動植物との共生に関する企画小委員会」	生物多様性ひょうご戦略検討小委員会	長崎県環境審議会 生物多様性保全戦略検討部会	流山市環境審議会・第2期環境行動計画策定部会	生物多様性なごや戦略策定会議		自然環境保全基本計画検討委員会	左と同委員会
	人数	12名	11名	8名	10名	13名	8名	8名	12名	9名	6名	専門家会議9名 市民検討会議7名		学識経験者8名 市民団体4名 マスコミ1名	左と同メンバー
	実施回数	9回	6回	8回	17回	4回	4回	8回	4回 ※うち2回は自然環境部会との合同会議	4回	5回	専門家会議6回 しみん検討会議2回		4回	1回
パブコメの実施		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○
シンポジウム			1回				1回				1回			3回(市民フォーラム)	
タウンミーティング				20回		タウンミーティング等県民等との意見交換会18回									
住民参加のためのその他の取組(パブリックインボルブメント)		ワーキング11回	素案に関する説明会2回	県民会議4回					NPO等活動団体との意見交換会4回、活動内容、要望に関するアンケート(195団体)	NPOとの情報交換会(6団体12名)	環境審議会4回	イベント会場でのアンケート	生物多様性・専門家ヒアリング協力者(10名)	NPO会合5回	NPO会合2回
								県内3地域で説明会を開催	環境審議会2回	アンケート(市民、事業者)1回					
									骨子案段階での意見募集1回	市民からの意見聴取1回		市民アンケート1回	ワークショップ・ワーキング12回	ワークショップ・ワーキング4回	
他部署との連携の図り方		庁内関係部局からなる北海道環境政策推進会議の設置	省内関係各課26課から構成する「生物多様性とちぎ戦略庁内連絡調整会議」	生物多様性庁内連絡調整会議6回	既存の庁内連絡会議での情報交換・意見交換	自然環境保全戦略チーム(部局横断的な組織)会議5回	県庁関連部局への照会		庁内関係部局への講演会の開催や連絡会議の設置	庁内関係部局長による21長崎県環境づくり推進本部及び同幹事会(課長)での説明、意見交換	特別職及び各部署長により組織される流山市環境行政推進会議を設置		既存の庁内連絡会議での情報交換・意見交換		

委員名簿

北海道		備考
	北海道大学名誉教授	部会長
	(社)北海道自然保護協会 会長	北海道環境審議会 委
	丸山環境教育事務所 主宰	北海道環境審議会 委
	北海道大学大学院文学研究科教授	北海道環境審議会 委
	北海道大学大学院水産科学研究院教授	
	室蘭工業大学准教授	
	東海大学国際文化学部地域創造学科教授	
	専修大学北海道短期大学みどりの総合学科准教授	
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授	
	札幌市立大学デザイン学部教授	
	北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授	
	北海道大学大学院水産科学研究院准教授	
栃木県		備考
	作新学院大学女子短期大学部教授	委員長
	宇都宮市環境保全課長	
	(社)栃木県経営者協会専務理事	
	NPO法人オオタカ保護基金代表	
	栃木県林業振興協会副会長	
	元栃木県立博物館学芸部長	
	うじいえ自然に親しむ会会長	
	宇都宮大学農学部教授	委員長職務代理者
	栃木県土地改良事業団体連合会事務局長	
次株式会社下野新聞社大田原総局長		
栃木県市町村消費者団体連絡協議会会長		
千葉県		備考
<委員>	東京大学大学院教授	会長
	江戸川大学教授	
	千葉大学大学院准教授	
	千葉県立中央博物館副館長	
	東邦大学教授	
	日本獣医生命科学大学准教授	
	東京情報大学教授	副会長
	江戸川大学教授	
	谷当グリーンクラブ	
	市川緑の市民フォーラム	
<オブザーバー>	県環境審議会自然環境部会長	
	夷隅郡市自然を守る会	
埼玉県		備考
第1回～第12回	株式会社三一八工房代表取締役	
	NPO法人むさしの里山研究会理事長	
	財団法人埼玉県生態系保護協会研究部長	
	東松山淡水生物研究所所長	
	埼玉昆虫談話会顧問	副会長
	埼玉大学教授	会長
第13回～第17回	NPO法人むさしの里山研究会理事長	
	財団法人埼玉県生態系保護協会研究部長	
	群馬県水産学習館館長	
	埼玉昆虫談話会顧問	副会長
	東京農業大学教授	会長
NPO法人野外調査研究所理事長		
愛知県		備考
	愛知教育大学教授	座長
	中京大学教授	副座長
	財団法人自然環境研究センター研究主幹	
	種の国森づくりの会理事	
	雑木林研究会事務局長	
	ピオトップを考える会会長	
	豊田市矢作川研究所総括研究員	
	中部経済連合会技術部長	
	名古屋商工会議所企画振興部長	
	愛知県農協中央会生活部長	
	愛知県森林組合連合会専務理事	
	環境省中部地方環境事務所統括自然保護企画官	
岡崎市環境部長		

委員名簿

滋賀県 (環境審議会自然環境部会)	平成22年6月1日～平成24年5月31日の委員	備考
	社団法人 滋賀県獣医師会	
	有限会社ブルーベリーフィールズ紀伊国屋 代表取締役	
	滋賀県野鳥の会 会長	
	株式会社イーグレット・オフィス 専務取締役	
	滋賀森林管理署長	
	社団法人滋賀県猟友会 会長	
	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 講師	
	京都大学大学院地球環境学堂 准教授	
	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授	
滋賀県森林組合連合会 代表理事会長		
兵庫県	県立人と自然の博物館館長	備考 委員長
	神戸大学教授	
	神戸大学教授	
	丹波の森公苑名誉公苑長	
	兵庫県森林組合連合会専務理事	
	生活協同組合コープこうべ理事	
	元兵庫県農業会議会長	
	兵庫県立大学教授	
	兵庫県立大学教授	
	兵庫県森林動物研究センター所長	
県立コウノトリの郷公園長		
兵庫県漁業協同組合連合会専務理事		
長崎県	長崎大学教育学部教授	備考 部会長
	長崎県野鳥の会会長	委員
	長崎大学環境科学部准教授	委員
	長崎バイオパーク副園長	専門調査員
	ふるさと自然の会副会長	専門調査員
	長崎新聞論説委員	専門調査員
	社団法人長崎県食品衛生協会研究員	専門調査員
	長崎県立長崎北高校教諭	専門調査員
	長崎県教育センター主任指導主事	専門調査員
流山市	環境団体代表	備考 部会長
	公募委員	
	公募委員	
	江戸川大学社会学部教授	
	温暖化防止ながれやま代表	
	江戸川大学社会学部教授	
名古屋市		備考 座長
専門家会議	国際日本文化センター教授	
	名古屋大学大学院環境学研究科教授	
	名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授	
	富士常葉大学環境防災学部教授	
	愛知教育大学自然科学系生物領域教授	
	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	
	名古屋大学大学院工学研究科教授	
	(株)コンボン研究所取締役	
	名古屋市立大学大学院経済学研究科教授	
	専門家会議委員	
しみん検討会議	専門家会議委員	代表 世話人
	なごや環境大学実行委員	
	中津川市職員	
	生物多様性アドバイザー	
	愛知学泉大学コミュニティ学部教授	

委員名簿

高山市	森のなりわい研究所代表	備考 森林・林業
	飛騨生態調査研究室代表	自然全般
	高山市環境審議会委員	自然全般
	岐阜県哺乳類動物研究会	哺乳類
	飛騨地学研究会会長	地学・風土記
	岐阜県博物館学芸員	魚類
	関有知高等学校教諭	昆虫類
	岐阜薬科大学特命教授	自然全般
	日本野鳥の会岐阜県支部副支部長	鳥類
	益田清風高等学校教諭	両性・ほ虫類

北九州市		備考
学識経験者		(生態学全般)
		(哺乳類)
		(昆虫)
		(自然計画)
		(水産)
		(森林計画)
		(都市緑化)
市民団体		(環境教育)
		(里山保全)
		(里山保全)
マスコミ		(魚類)
		(鳥類)
		(社会一般)